

読書の秋！

朝夕の風が冷たくなり、秋が次第に深まってまいりました。秋といえば「運動の秋」「食欲の秋」など様々な過ごし方がありますが、実りの秋にふさわしい「読書の秋」も深まっています。

先週は、W校・LI校ともに古本市が開催されました。また、本校にはこれまで購入してきた図書や皆様からご寄贈いただいた大切な本がたくさん揃っています。児童・生徒のみなさんには、これらの図書を存分に活用し、豊かな日本語にたくさん触れてほしいと願っています。

1. 豊かな想像力を育む「時代や世界を超える体験」

子どもたちは「恐竜がいた大昔に行ってみたい」「未来の宇宙船に乗ってみたい」といった好奇心を秘めています。本を開く行為は、まさにタイムマシンに乗るようなものです。大昔の地球へ旅立ったり、遙か未来の宇宙を冒険したりと、本の世界は子どもたちの想像力をどこまでも広げてくれます。紙の上で繰り広げられる体験は、子どもたちの知覚や豊かな発想の糧となります。

2. 他者への共感性と心を育む「多様な価値観との出会い」

読書は、自分とは異なる考え方や、遠い国に暮らす人々、時には生き物の気持ちにまで思いを馳せるきっかけを与えてくれます。「主人公は今、どんな気持ちだろう」「自分ならどう行動するだろう」と考えながら読む体験を通して、相手の立場を思いやる「優しさ」と、多角的な視点で物事を見る「しなやかさ」が育まれていきます。

3. 本から広がる世界「読んで知った感動を伝える力へ」

「読書」の素晴らしさは、本を読む(インプットする)ことだけにとどまりません。本や資料を通じて新しい知識や多様な世界に出会った子どもたちは、そこからさらに興味を広げ、「もっと知りたい」「みんなにも伝えたい」という探究心と表現力を高めていきます。W校校内(廊下)には、子どもたちが興味を持ったテーマについて調べてまとめた手作りの「壁新聞」が掲示されていました。運動会やワールドカップといった身近な行事・スポーツから、世界の料理や文化、映画、歴史に至るまで、子どもたちの関心は実に多岐にわたっています。本や様々な資料を活用しながら情報を集め、自分の言葉で構成を考え、見出しやイラストを工夫して一つの「作品」として仕上げました。

本校の図書には、子どもたちがまだ出会っていない豊かな世界や物語がたくさん揃っております。ご家庭におかれましても、この秋、お子様とどんな本に興味を持っているか、ぜひ話題にしてみてください。

